

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 調査結果

4月18日に行った「全国学力・学習状況調査」の結果ができましたのでお知らせします。

### 正答率 (%)

教科	本校	神奈川県	全国
国語	74	66	67.2
算数	75	63	62.5



2教科ともに国や県と比べて高い正答率でした。

国語では、ほぼ全ての設問で全国平均を上回る正答率でした。特に「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題や「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」といった問題では、全国平均に比べ正答率が10%以上高い結果でした。一方、「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」問題では全国平均を若干下回りました。また「複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、理解したものを工夫して書いたりすること」は全国的に正答率が低く、課題があります。自分の考えを支える根拠となる情報を選択することのできる力、自分の考えが伝わる文章を書く力を身につけられるように指導していきます。

算数でもほぼ全ての設問において全国平均を超える正答率でした。特に「筆算について図を基に商の意味を考える」問題では全国の平均正答率より25%ほど高い結果でした。一方、「三角形の面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかみる」問題では全国的に正答率が低く、笠間小学校でも正答率が低い傾向にありました。問題を解決する際に必要な情報を主体的に見出したり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導していきます。

### [児童質問紙の回答結果より]

#### <生活・意識について>

生活習慣・学習習慣の項目は概ね良好です。「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」が高い傾向にありました。「人が困っている時には、進んで助けている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」といった意識は他の意識調査の回答率よりやや低い傾向にあります。違いを認めあい、安心してコミュニケーションがとれる環境を学校でもつくっていきます。

#### <学習意識について>

「その教科は好きか」「大切だと思うか」「社会に出て役に立つと思うか」という設問では、各教科ともとても肯定的な回答でした。「5年までに受けた授業で、PC・タブレット端末などのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、90パーセント近くの児童がほぼ毎日使用していると答え、「PC・タブレット端末などのICT機器は勉強の役に立つ」と考えている児童が多くいました。ICT機器の学習での活用が子どもたちの中で定着してきたといえます。「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」は全国に比べると高い結果でした。しかし、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していた」では、全国と比べても低い結果となっていました。対話的な学びによって一人ひとりの主体的な学びがより深い学びとなっていることを実感できるように、授業改善を行っていきます。